

平成23年11月12日

散居村 (砺波市柳瀬地区)空き家活用プラン

NPO法人土蔵の会

「柳瀬地区空き家対策」調査員

長谷川 徹

私の住んでいるところ

伝統的な美しさを誇る「散居村」



「散居景観」 国内最大級
広さ 220km²
散在農家数 約7,000戸



柳瀬地区の現状

少子高齢化、子供の県外への進学・就職、核家族化などの社会背景



- ・独居老人宅、空家の増加、住宅団地の拡大
- ・散居村を形成している旧地区
239世帯「空家14世帯(6%)、65歳以上独居15世帯(6%)」962人
- ・二十数年で小学校と中学校の間に広がった住宅団地
373世帯「空家2世帯(1%)、独居0世帯」1225人





旧地区における空き家

佐藤家_(1170坪)



廃屋

将来



自治会の安全・安心の確保や運動会、獅子舞などの実施が困難となり
コミュニティを守ることができなくなる(旧地区)
歴史的文化財でもある散居村景観の保全ができなくなる

空き家の活用用途

空き家の活用用途は、借り手・買い手によって多様な形態が考えられる

借り手・買い手 (利用者)	用途区分				
	住宅系施設	コミュニティ施設	福祉施設	文化施設	観光・商業施設
個人	■定住用住宅 ■別荘				
企業 (事業者)	■社宅		■福祉、文化施設(商用利用) ■保養所	■ギャラリー	■旅館・民宿 ■小店舗
自治組織		■集会所	■いきいきサロン	■工房 (加工施設等)	■観光案内所
行政		■コミュニティ施設 ■行政サービス施設(出張所)	■福祉施設	■文化施設	■観光案内所

柳瀬地区の空き家に居住された方々

どうしたら、空き家に居住してもらえるか……



- ・居住された理由は？
- ・居住のメリット、デメリット



空き家の活用用途の方向性

本来の目的は？

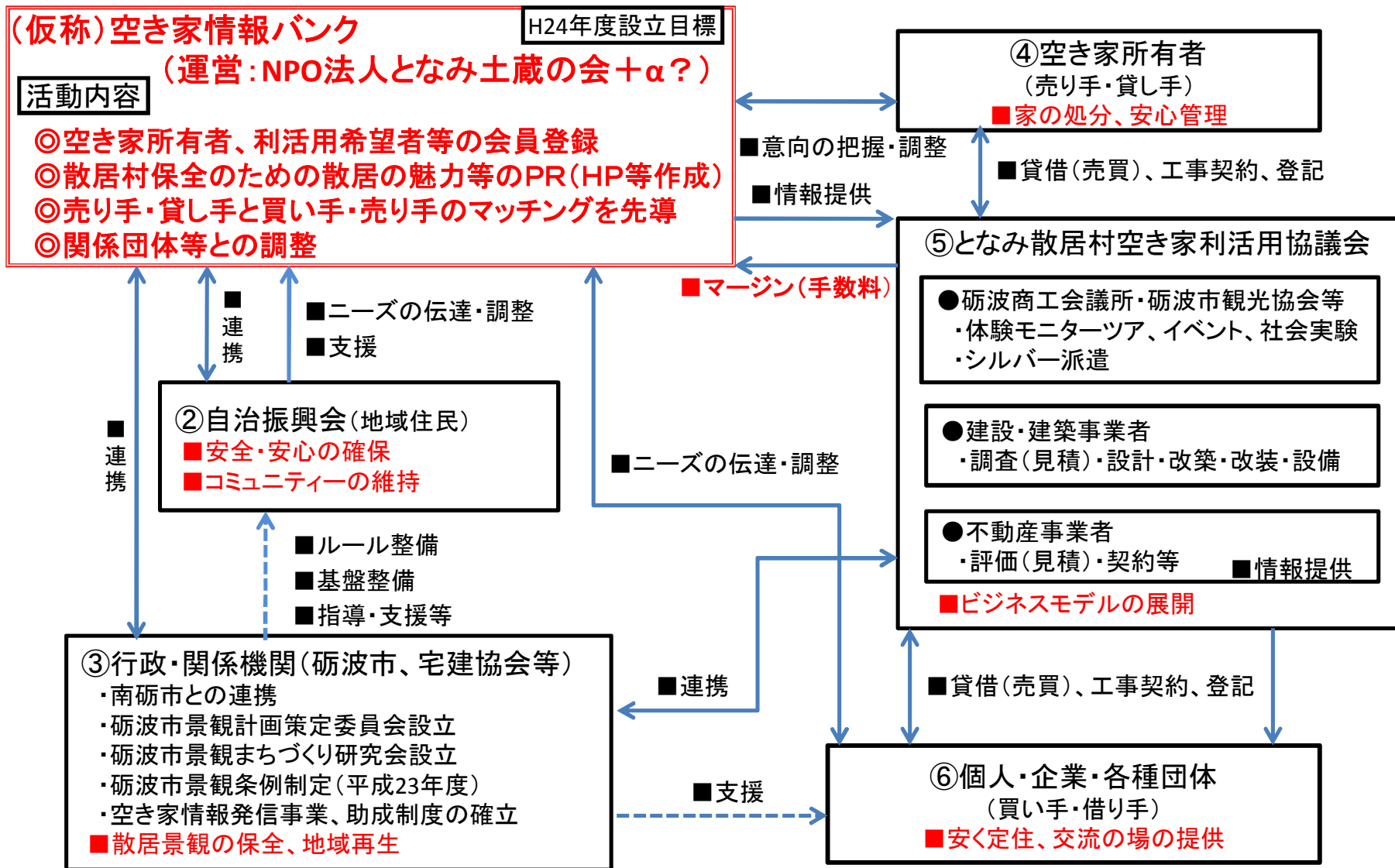
柳瀬地区の地域活力の維持、コミュニティの永続

方向性

- ・拡大する住宅団地に入りたい方を定住用住宅の空き家へ誘導(**第一優先**)
(時々使用している空き家所有者に目的の説明を認識していただくとともに、
いろいろなしがらみを取り除き、安く譲ってもらう努力)
- ・田舎暮らし(定住・半定住)を求める方を空き家へ誘導
- ・規模が特別大きい空き家は、文化施設等にできないか検討

(仮称)空き家情報バンクと行政・自治会等との役割関係図

◎全ての関係者に**メリット**がある空き家の利活用を模索することが必要



(仮称)空き家情報バンクの設立に向けて

H24年度設立
目標

(仮称)空き家情報バンク

(運営:NPO法人となみ土蔵の会+α?)

活動内容

- ◎空き家所有者、利活用希望者等の会員登録
- ◎散居村保全のための散居の魅力等のPR(HP等作成)
- ◎売り手・貸し手と買い手・売り手のマッチングを先導
- ◎関係団体等との調整

柳瀬地区の「獅子舞」を撮影した様子

